令和５年度 第１回 国産材の安定供給体制の構築に向けた
関東地区需給情報連絡協議会 議事録

1 日時：令和 5 年 6 月 12 日（月）10：00～12：00
2 場所：ウェブ会議 （Zoom）
3 出席者：別紙のとおり
4 議事次第及び配布資料：別紙のとおり
5 概 要

（ 開 会 ）

○司会（茂野） 開催にあたり、当地区協議会事務局を代表いたしまして、会長の村松からご挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

（ 挨 拶 ）

○地区会長（村松）

今年、関東地区協議会の事務局を新潟で担当させていただくということで、森林組合連合会の村松です。地区の会長の役目を努めさせていただきます。

本協議会は、原木の供給、そして需要、流通、ウッドショック等、いろいろな波がある中で、木材業界、国産材の利用という意味で、地域材の利用という意味では、追い風の流れとはなってはいるはずなのですけれども、その追い風が、うまく、皆さんが十分にその追い風を享受できるという状況にはなかなかなっていないというところだと思います。

その中で、この協議会が果たす役割というのは極めて重要だと認識をさせていただいております。

ぜひ、本日は、酒井座長様を中心に活発なご議論をいただいて、この地域の需給情報がしっかりと伝わり、需給がうまく機能するような、その助けとなれるような連絡協議会とさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（茂野） ありがとうございました。議事本題に入らせていただきます。

本日の座長は、一般社団法人日本木質バイオマスエネルギー協会会長の酒井先生にお願いしております。それでは、酒井先生、よろしくお願いいたします。

（ 議 事 ）

○座長（酒井） ただいまご紹介にあずかりました酒井です。

それでは議事に入りたいと思います。

村松様のご挨拶、ありがとうございました。

前回、今年の１月２４日に開催されました。そのときは建材全般の値上がりで住宅単価が上がり、持ち家の着工数が減っているとか、輸入材リスクが顕在化した中で、先ほどのご挨拶にもございましたけれども、国産材活用への期待が高まっているというようなご報告をいただきました。

４月には、物価上昇に賃金上昇が追いついていないとか、今月に入って、電力料金の大幅値上げとか情報も入っております。

そういった中で、本日、４７名のオブザーバーも含めたご出席、いただいておりますので、活発な、貴重なご意見を賜ればと思います。よろしくお願いいたします。

まず、議事の１、林野庁から、需給動向や予算措置に加えて、クリーンウッド法の改正についてご説明をいただきたいと思います。

それでは、よろしくお願いいたします。

（1）　**林野庁からの情報提供**

○林野庁（永島）　資料に基づき説明（議事省略）

・資料１　木材輸入の状況について
・資料２　木材需給動向について
・資料３　アンケート結果一覧　５月（関東地区）
・資料４　令和５年度当初予算及び令和４年度補正予算について
・参考 1～6

○林野庁（齋藤）　資料に基づき説明（議事省略）

・資料５　ｸﾘｰﾝｳｯﾄﾞ法の改定について

○座長（酒井）　ご説明ありがとうございました。

それでは、ご質問等ございましたら、押しボタンでお知らせください。

○座長（酒井）　石野さん、よろしくお願いします。

○株式会社フジイチ（石野）　フジイチの石野です。よろしくお願いします。

今のクリーンウッド法、見ていたのですけれども、浜松市ではＦＳＣを採用していまして、非常に環境には熱心にはやっているつもりなのですけれども、クリーンウッド法とＦＳＣの関連が毎回よく分からないのですけれども、どんなふうな扱いになるのでしょうか。

○林野庁（齋藤）　ありがとうございます。

クリーンウッド法に関して、ＦＳＣ、どうなっているのかということですけれども、現在もＦＳＣの証明というのはクリーンウッド法で合法性を確認するときに使える、活用できるというふうに整理をしております。

改正後もこの整理は変わらない予定でございます。

皆様に、やはり分かりにくいということは様々ご指摘いただいておりますので、より明確に、文章で分かりやすく、こうだからこういうふうに活用できるのだということをできる限り明確にお示しできればと考えています。

○株式会社フジイチ（石野）　すみません。今、ＦＳＣは認めているという話なのですけれども、そうしたら、ＦＳＣを持っている我々は、ＣｏＣ持っている人は、クリーンウッド法で取れなくてもいいというか、一緒であると考えてよろしいのですか。

○林野庁（齋藤）　例えば、クリーンウッド法でお願いしている記録の保存とか、その証明自体、確認自体はＦＳＣを確認していただければ原則大丈夫というふうに取り扱いたいとは思っておりますが、記録の保存とか伝達とかそういったものに関しまして、クリーンウッド法に基づいてやっていただくということをやはりお示しいただく必要があるのではないかということで、今だと、ＦＳＣのＣｏＣ持っていらっしゃる方は、そのＦＳＣのＣｏＣですよという情報を伝達していただいていると思うのですけれども、それに加えてクリーンウッド法でもオーケーですよというようなことを伝達いただかなければならないと思っていますが、できる限り、プラスアルファの事業者の手間が発生しないようにどうにか整理できないかというふうに、今、検討しているところです。

○株式会社フジイチ（石野）　はい、分かりました。
ここで議論しても始まりませんので、また、後ほど、いろいろ聞きたいと思います。
ありがとうございました。

○林野庁（齋藤）　引き続きよろしくお願いいたします。

○座長（酒井）　ほかにご質問ございますでしょうか。よろしいですか。
それでは、時間もありますので先へ進めさせていただきたいと思います。

（２）木材需給の動向について、（３）意見交換
○座長（酒井）　議事の２番と３番一緒にして、木材需給の動向について、意見交換も含めてお願いいたします。
まず、川下の建築事業者からご報告等お願いいたします。
本日は、プレカットのウッド・ストラクチャーはご欠席ですけれども、日本木造住宅産業協会、入山様、よろしくお願いします。

○一般社団法人日本木造住宅産業協会（入山）　はい、木住協の入山でございます。
住宅の景況感というところでいきますと、冒頭も少しご説明あったかと思いますが、やはり、昨年の住宅着工数、年間でいくと８６万戸ということで、ちょっと伸び悩んでいると言いますか、その先々を見据えていけば、やはり住宅着工というのは今後どんどん縮小していくという見込みで、なかなか、これが今後大きく増えるという見通しはちょっと立てにくいのかなというふうには感じております。
ただ、木材関係でいきますと、特に戸建て住宅のところでの着工数というものの減少がちょっと顕著に見られるという部分はあろうかなと。
この部分をいかに今後増やしていくのかというところ、維持していくのかというところが業界としての大きな課題になるのかなと。
あと、少し、詳細なところを見ていきますと、一般的な戸建て住宅というところに関しては先ほど申し上げたとおりの流れなのですけれども、今、国交省なり経産省、環境省で、省エネ住宅という部分での、かなり、そちらに誘導するための政策がうたわれている中で、高規格、高品質というのですか、そういう住宅に対しての件数の増加というのは見られていきますので、こういう、高性能住宅への誘導という中で、この木材、木造というものをどういうふうに広げていくのかというのが業界全体の課題なのかなとは思っております。
すみません、ちょっと駆け足になりましたが、以上です。

○座長（酒井）どうもありがとうございます。続きまして、二宮様、お願いいたします。

○一般社団法人ＪＢＮ・全国工務店協会（二宮）　はい、二宮です。今日はご苦労様でございます。
一般工務店としての発言なのですけれども、やはり、住宅の着工件数というのは減少化しているということでございますが、リフォームは増えています。マンションのリフォーム、それから、中古住宅のリフォーム、特に私の所は茨城県ですので。空き家対策というところで、全国的な傾向として、空き家をどのように活用していくかということが課題になっております。そういう中で、構造材よりもそちらの羽柄材が増えてくるのかなというふうに思っております。
そうすると、羽柄材が増えるとなると、今まで外材が主流で羽柄材を使っておりました。私たち、仕上材の下地というのは、やはり精度がないと困るわけです。羽柄材は、バンドをされている状態で乾燥されて、現場に入ってきます。バンド外した時点で、大きく狂っている材料は、使い物に成りません。場合によっては、１束の中で、８割程度しか使えないという状況です。

そういう中で、北洋材等については結構使いやすかったわけですが、その北洋材、そういった羽柄材も、今後スギに変化していきたいなということで、スギ材を使ってはみたのですが、なかなか思うようにいきません。価格よりも性能を、仕上材の下地ですので、やはり、野縁材とか間柱材、これについては、間柱等については、ほとんど、うち、全国的にみんなそうだと思うのですが、ヒノキ材、スギ材が増えてきていると思いますが、天井野縁材については、やはり細い部材になりますので、なかなかないのです。

その様な中で、何とか、木材加工業のほうで、精度の良い羽柄材について、上手に作っていただいたらいいなという期待があります。

それから、非住宅の木造化が、推進されています、建築士会でも、コンクールや作品募集等含めて、国産木材需給に取り組んでおります。

今後は、ＪＢＮ全国工務店協会としましては、国産材の需給がスムーズにされること、品質の良い国産材の羽柄材等が、普及されることを希望しております。

以上です。

○座長（酒井）　ありがとうございました。

続きまして、全建総連の、今日は代理でしょうか、古沢様、お願いいたします。

○全建総連東京都連合会（菅原）　今日は古沢の代わりにわたくし菅原が参加させていただいています。全建総連東京都連の菅原です。よろしくお願いいたします。

我々の組織は東京都内にある 14 の組合からなる連合体で加入者は１３万人になります。多くが、大工や左官、塗装等の建設職人の組合です。

工務店も加盟していますが、ほとんどが中小零細規模です。

全国組織で上部団体の全建総連は６２万人の組織ですが、その中の１３万人が東京都連です。

我々の仲間の中に新築も手掛ける工務店もありますが、ＪＢＮ会員と比べると規模的には小さな事業所が多いという印象です。

東京都連としては、今年の３月１０日に東京都と建築物の木材利用促進の協定を締結させていただきました。

そのため、我々の仲間も多摩産材を中心として、木材を積極的に促進し、取り組みを進めています。

材料的には、多摩といっても西寄りの材料になってしまうので、東側への多摩産材の流通が困難であるという実情もありますが、東京都の強い推進もあり、多摩産材を積極的に使っていこうということで協定締結に至りました。

ＪＢＮのお話もありましたが、我々町場の工務店も含めて、いまはリフォームが多いです。空き家も含めてですが、マンション、あるいはマンションの内装、あるいは木造の戸建ての「居ながらリフォーム」、そういった仕事がかなりの量を占めています。

新築の着工戸数も、今年１月から比べると少しずつ増えてきているようですが、町場の工務店がその新築住宅を請け負うというのは、数的に少なくなってきていると思うので、国産木材を活用する場面としてはリフォームが増えてきていると思います。

我々東京都連とＪＢＮで構成される全木協という組織があり、災害時の応急仮設木造住宅を手がけています。

その組織の東京都協会の会長は、ＪＢＮの池田さんという方で、我々、東京都連と一緒に取り組みを進めています。

毎月、研修会や会議を行い、災害時の木造の仮設住宅を建設するためにはどうしたらいいかというテーマで、シミュレーションを進めています。

災害が発生しないことが一番いいのですが、豪雨災害や地震災害は避けられませんので、万が一の災害が発生した時にどう動くのかといった取り組みをＪＢＮとともに進めています。

都連としても全木協東京としても取り組みを進める中で多摩産材の活用を念頭に取り組みを進めています。

今後ともよろしくお願いいたします。

○座長（酒井）　どうもありがとうございました。
ただいまのところで、川下から川下の建設関係のご報告いただきましたけれども、ご質問等ございましたらお願いいたします。どうぞ、永島さん、お願いします。

○林野庁（永島）　林野庁の永島です。皆様、ご意見などありがとうございます。
ＪＢＮの二宮様のご発言の中で、羽柄にスギを使ってみてという話があったと思うのですけれども、供給体制がもう少し充実するとよいなという話だったと思います。一つお尋ねしたいのが、実際ちょっと使ってみて、性能面について反応はどうだったかなということで、もし情報があれば教えていただきたいです。

○一般社団法人ＪＢＮ・全国工務店協会（二宮）　はい、ありがとうございます。
スギの羽柄材の、特に問題になるのは野縁です。
野縁は、材料が小さいものですから、国産杉材で１度使ってみたのですが、ほとんど無節になってくるので、値段的にも高いし、これを野縁で使っていいのか、本来なら竿縁等化粧材に使えるような無節の柾目のいい材料が羽柄材として隠れてしまう、そういうところに使うわけです。ちょっと気持ち的に使いづらかったです。
それから、１束の中で使えるものがやはり７割ぐらいで、３割ぐらいは駄目でした。
ホームセンター等でも、探してみました。そしたら、何と、置いてあったのです。それで使ってみましたが、やはり、使えなかったのが事実です。
野縁はやはり、外材に頼るほかないのかもしれないです。工務店の中では、そこの部分だけを、輸入がちょっと厳しい状況があった時期がありましたよね、そのときに、Mバーいう、軽量鉄骨材のMバーという材があるのですが、天井野縁に組むものです。断面がM字のような、アルファベットのMのような形をしているのでMバーというのですが、そういうものを使って、天井軽天を組むのだというようなところもありました。
でも、それって、木造ではなくなってくるので、何とか国産材で賄えるものであったらいいなというふうに考えます。
それから、必ずしも天井を平らに上げていくという形ではなく、斜め勾配にして、少し野縁の間隔を飛ばして、野縁という考え方ではなくて垂木という考え方にして、精度の高い垂木を使うことによって、直接、天井の木を見出しにして仕上げていく様な、そういった設計のほうの配慮も必要ではないかなと。そこを変えるのは、地元の工務店の知恵で、より優れた木造住宅を作っていきたいと思います。

○座長（酒井）　よろしいでしょうか。

○林野庁（永島）　はい、重要な情報をありがとうございます。
はい。また詳しく、また機会があったら教えてほしいと思います。
ありがとうございます。

○座長（酒井）　どうもありがとうございました。
スギの需要拡大に向けて、いろいろとご提言等今後もいただければと思います。
続きまして、川中の木材加工、木材流通へ話題を移していこうと思います。
名簿の順でいこうと思います。
今日は、協和木材、宮の郷木材事業協同組合、ご欠席と伺っています。
キーテックの栗原様からお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

○株式会社キーテック（栗原）　私ども、合板ＬＶＬを製造販売しておるのですけれども、やはり、今の現状どおり、昨年、おととしに比べると大幅な減産というか、販売が減少している環境下に置かれております。

併せて、減産ということも含めて、丸太の消費が大分落ちてはいるのですけれども、一方で、素材業者であったり森林組合、取組、協定であったり、数量を取り決めている事業者については、足りないからもっと頂戴とか、たくさんあるからもう要らないという関係は持たずに、可能な限り協定の数量を維持して受け付けをしています。

非常に、消費という点では苦労はしているのですけれども、より、川上側の皆さんが安心というか、安定して私どもの工場に納入できるような体制を、今、構築しているところであります。

簡単ですけれども、以上です。

○座長（酒井）　続きまして、新潟合板振興株式会社の馬場さん、よろしくお願いします。

○新潟合板振興株式会社（馬場）　当社は、普通合板をメインで生産している会社でございます。

当社は、前年度下期、第４クォーターの１月頃から、これ以上製品在庫をためるわけにはいかないということで、３割ほどの減産、生産調整を行ってまいりました。

それに伴って、国産材の仕入れにつきましても一部受入れ制限を設けて対応してきたのですが、年度が変わっても荷動きが改善された雰囲気は感じられず、今現在も１割減ほどの生産調整を行っている次第です。

ただ、同時に、輸入合板の入荷量も減ってきているので、アイテムによっては、若干、物が少し薄くなっているみたいな話も聞こえてきておりますので、今年度は、前半は我慢で、後半が勝負になってくるのかなと思っております。

以上です。

○座長（酒井）　続きまして、ノダの宇佐美様、よろしくお願いします。

○株式会社ノダ（宇佐美）　弊社、皆様ご存じのとおり、静岡県を中心に、住宅用の建材製品、並びに、素材といたしましてはＭＤＦ及び国産材合板を主力に生産している会社でございます。

冒頭、皆様からお話がありましたとおり、昨年度末、昨年の、年明ける前ぐらいからですか、建材の需要、並びに素材ものの需要が大幅に落ち込みまして、現在、国産材に関する合板で申し上げますと、平日はフル稼働しておりますけれども、土曜日の休日の生産を一部停止して生産調整をしているところでございます。

原料の受入れにつきましてはできうる限りの安定供給という概念に伴いまして、静岡県を中心に、需要供給の協定を結んでいる先につきましては、弊社といたしまして、最低限の受取を現在もお願いして実施しているところでございます。

このペースが夏以降も続くのかなというところについては、なかなか、先がちょっと見通せない状況かなというふうに感じております。

簡単ではございますが、以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、中国木材鹿島工場の柚山様、お願いします。

○中国木材株式会社鹿島工場（柚山）　はい、柚山でございます。よろしくお願いします。

輸入材につきましては、為替の影響、特に大きな円安に動いていますので、それぞれの国での需給バランスによってこれから変化するのではないかなと考えています。

特にヨーロッパ材はこれからサードクォーターの交渉に入りますし、米材についてはアメリカでの金利の影響で住宅着工に変化が出れば、材料についても大きく変わってくるのではないかなと予想しております。

あと、国産材については、それら輸入材の難しい部分をカバーできれば大きなチャンスではないかと考えております。

全国の国産材工場で、弊社の国産材工場で、どんどんやっていこうと考えております。

弊社からは以上です。

○座長（酒井）　続きまして、福島県木材協同組合連合会の前田様、お願いします。

○福島県木材協同組合連合会（前田）
私のほうからは、県木連の立場というところで、全般的なところでの現在の状況であったり今後の見通しというようなところでお話をしたいと思います。
まず、現在の状況でございますけれども、昨年からの資材高騰等による住宅着工戸数の減少が続いておるということで、特に今年１月以降の前年同月比で７割台で推移をしているというような厳しい状況が続いておりまして、地場の工務店、あと、プレカット工場なども大変厳しい状況が続いているという状況でございます。
製品の価格につきましても、集成材の値下げに続きまして、無垢の製材品も併せて下がっているというようなところで、スギのＫＤ材で７万円台といったような状況になっております。
また、丸太についても、製材需要が減少している中で、合板向けの受入れ制限も続いているということから、原木市場への入荷が大変多くなってございまして、一時期ほどではないのですが、市場の土場が満杯というような状況も続いておりまして、札が入らない元落ちというようなものもかなり出ているというような状況で、柱取りの丸太で１万円を下回るようなものも出てきているというような状況です。
今後の需要回復が待たれるといったような状況でございます。
今後の見通しというところでございますが、しばらくは住宅着工の回復は見込めないというところで、さらには、製材工場では製品価格の下落に加えまして、電気料金の高騰等により厳しい経営状況が続くというような見方が大半を示しているということで、秋口以降の景況回復に期待をしたいというところです。
あと、ちょっと話はずれるのですが、今後、花粉症対策という中で、政府の骨太方針に盛り込まれていることなのですが、今後、その中で出てくるスギ材の需要拡大策についても期待をしたいなと思っているところです。
福島からは以上です。

○座長（酒井）
茨城県木連、よろしくお願いします。

○茨城県木材協同組合連合会（二方）　流れ的には福島県と同じ、スギの平角でＫＤで７万前後、ヒノキで８万５０００円くらいというようなことで、横ばいということにはなっているのですけれども、やはり、今後の、どのように推移していくかということが心配な状況です。
あとは、やはり住宅着工戸数が減っているということで、県産木材の需要ということで、公共施設、非木造住宅物件に力を入れていきたいと思っております。
以上です。

○座長（酒井）　続きまして、栃木県木連、お願いします。

○栃木県木材協同組合連合会（見立）　栃木県も、福島、茨城県と同様、地場の住宅着工は非常に厳しい状況にあると。
県の家づくり支援制度、毎年、委託事業で進めておりますけれども、なかなか件数的には、非常に今、伸び悩んでいるという状況にあります。
製材の製品等につきましても、一昨年のウッドショック以前の価格に今のところなりつつあるという状況にあります。
ただ、そういった中で、栃木県木協連としましては、地方公共団体との木材利用協定、これを結ぶことによって、非住宅、いわゆる公共建築を中心とした非住宅のほうにも力を入れ

ていこうということで、木材利用協定を、栃木県に、県とは別に２５市町ありますけれども、今のところ２市と、二つの市と結んでおります。
　今後につきましては、さらに木材利用協定を地方公共団体と結んでいくことによって、非住宅、特に公共建築の木造建築のほうを進めていこうと思っています。
　併せまして、木材コーディネーター制度というものを木協連の中に設けて、これを一昨年から進めておりまして、これがだんだん形になりつつあると。地方公共団体からの要請依頼も増えているという状況にあります。
　以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、群馬県木連、お願いいたします。

○一般社団法人群馬県木材組合連合会（石田）　群馬県です。お世話になります。
　今回の回答に当たって、複数の、主に製材工場にお聞きしてみたのですけれども、製材品の需要としては、やはり住宅が大きなウェイトを占めているわけでありますけれども、持ち家の新築がやはり減っているということと、あと、１棟当たりの部屋数が減るですとか、要は、坪数が小規模になっているのかなということで、木材の使用量も減少があって、なかなか伸びる要素が見いだせない状況だということがありました。
　製材工場の中には、注文が三、四割減ってしまっているということを言っている工場もありました。
　製材品の価格については、出荷価格が下がっているということで、安売りの状況がありますというお話もありました。
　今後の見通しについて、困難ということで、現在の状況が続くものと考えております。
　以上です。

○座長（酒井）　続きまして、千葉県木材振興協会、高浦様、お願いいたします。

○一般社団法人千葉県木材振興協会（高浦）　はい。どこの県、県連ともやはり共通で、なかなか厳しい状況が続いているということで、それぞれの各担当組合からのお話は伺っておりますので、今後、いろいろな情報の提供を求められているところでございますので、そういった需要に答えるように頑張ってまいりたいと思っております。
　以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、新潟県木連木村様、お願いします。
　声が届いてないのですけれども。
　また後で発言の機会をつくりたいと思いますので、ひとまず先へ進ませていただきたいと思います。
　山梨県木協、お願いします。

○一般社団法人山梨県木材協会（大竹）　先般、会員企業に聞き取りをしましたところ、製材品の購入価格は安定してきて、安定的に確保できると。
　気がかりな点としましては、他県の状況と同じように、住宅着工戸数の減少が非常に気がかりだと。
　今後３か月の見通しにつきましては、今までと同様の傾向を見込むというような意見が大勢でした。
　以上、山梨県からです。

○座長（酒井）　続きまして、静岡県の藪崎様、お願いいたします。

○静岡県木材協同組合連合会（薮崎）　状況的にはほかの県と同じなのですけれども、静岡県の場合、皆さんからお聞きしているより一層厳しいのかなというような状況を感じてお

ります。
　昨年の住宅着工戸数も、統計取って初めて２万戸を切ったというような状況になっておりまして、昭和５０年以降、過去最低の数字を記録しております。
　住宅着工の数字を見ても、組合員が販売している中小の工務店のところに、供給している製材工場であるとか、関連しているプレカット工場が、例年並みからいくと５割とか６割の稼働率になっているという話も少し聞こえてきていまして、単純な住宅着工戸数で見える景況感よりも、より一層、中小は厳しい状況になっているのではないかと感じている。
　大手のところのうちはそれなりに建っているのかもしれないのですが、地域で年間１０棟、２０棟、その辺ところから下の仕事が薄いという状況が見受けられるようになっております。
　大変な状況になってきたなということで、先も見通せない状況になっています。
　以上です。

○座長（酒井）　流通のほうに入っていきたいと思います。
　物林株式会社の高井様、お願いいたします。

○物林株式会社（高井）　はい。物林の高井です。
　私からは、皆さんの、国産材に関する、川中、川下のお話があったということで、同じような感覚を持っておりますけれども、外材についてちょっと情報提供させていただきますと、先ほど、林野庁のご説明の資料の中で、東京港の製品在庫のグラフがあったかと思うのですけれども、北米材、欧州材、ロシア材、この三つで大体１０万立方と。５月の段階で１０万立方ということだったのですけれども、現在、先週末段階で、この三つで大体９万７０００立方ぐらい、その他が３万５００立方くらいありまして、合計１２万８０００立方弱ということになっております。
　なので、この３万立方というその他ですね、米加材、欧州材、ロシア材以外のその他、恐らく、中国だとか東南アジア、チリ、南米、そういったところなのかというふうに思うのですけれども、合計で１２万７７００というような、先週末の在庫になっております。
　そういう、このレベルは１２万立方が標準というふうにグラフではなっておりましたけれども、私どもも標準の範囲に入ったのかなというふうになっております。
　市況、特にヨーロッパの市況はと言いますと、現在の日本の市況の価格では、集成材が合わなくなっている、赤字な状況になっているようです。
　なので、会社によっては集成材の生産を絞るというようなところも出てきているというふうに聞いております。
　結局のところ、中国も安いものしか買わないということもあって、少しでも高い、日本に仕向けているというようなことだという状況です。
　一方、ラジアーターも、ニュージーランドの水害があったり、チリでは山火事が生じたりして、若干、その供給先の不安もあって値段が高値にちょっと戻しているみたいな話もあります。
　そんなような状況なのですけれども、一時、かなり多かった中国産のＬＶＬも、東京辺りでは、ちょっともう、少し減ってきたかなというような感じです。
　ここで、アンケートにも書いているのですけれども、在庫調整がある程度進んできているというふうな認識はあるのですが、結局のところ、今後どうする、どうなるかというのは住宅着工次第なのではないかなと。ここのところがどうなるか次第で、木材、国産材の市況もダイレクトに反映されるような在庫状況になっているのかなというふうな感じを受けております。
　以上です。

○座長（酒井）　次はパルプへ移りたいと思います。新東海製紙の松永様、おられますでしょうか。

○新東海製紙株式会社（松永）　はい。紙は、年を明けてから、紙の売行きが、正直、悪くなってきております。

私ども板紙といった紙を使っていて、段ボールとかクラフト紙を作っているのですが、こちら、ゴールデンウィークのとき、いわゆる缶ジュースとか缶ビールとか、そういったものが需要期が来るといったところのものがあったのですけれども、この需要期が増える時期で見込んでいたのですけれども、実際増えることがなかったということで、非常に売行きのほうが悪いです。

今現在、今後の見通しとしましては、取りあえず、夏季、夏、お盆中から、紙のほう、うちの工場は定期修理が入って使用が減るということで、在庫が、置場がなくなってしまうといったこともありまして、ちょっと仕入量を調整しているといった状況でございます。

紙の業界としてはそんなようなところで、あと、こういった需給情報連絡協議会で、今後、やはり、どうやったら木が売れるかなとかいろいろ考えた中で、日本の文化のイメージというのはやはり木材文化といったイメージがあるものですから、木造住宅の町並みとか日本の風景を取り戻すような形で世間にアピールできて、社会的に、また経済的に立ち位置が強くなればいいかなという形に思っております。

先ほど、木住協の入山さんが高性能住宅と言った中で、これがうまく純木造で組み入れることができないかなといったところと、あと、そういった町並みを、県とか国とか、うまく木造住宅の町並みをつくることによって、そこに小さな工務店とか入った形、全建総連、リフォームとか、そういった形が組めて、木の文化を日本の文化として、社会的、また、あと、海外的にアピールできるような形でなってくれれば、間接的にですけれども、製材業が活発に動ければ、木材チップ、うちのほうでうまく取れて、紙としてリサイクルできればなと思っております。

紙の業界は、やはり紙になってしまえば何十回もリサイクルできますので、逆に言えば、バイオマスという形で簡単に燃やすような形にならないような風潮も進めていきたいなと思っております。

以上です。

○座長（酒井）　続きまして、北越コーポレーション、お願いします。

○北越コーポレーション株式会社（逢坂）　北越コーポレーションの逢坂です。今日はありがとうございます。よろしくお願いします。

弊社ですけれども、燃料チップ、住宅解体材、物流梱包資源等を由来としたチップをボイラー燃料とし、自家使用と売電しております。

価格のほうは、昨年、燃料費が上がった影響によって買取価格の値上げを実施しました。

今後３か月の見通しとしては、今の市況感は継続するだろうと。

タイトながらですが、他社のボイラーのほうで、関東地区ですけれども、トラブル等があって、需要自体はそんなに逼迫はしていないと。それは秋口ぐらいまで続くとの見込みがありまして、今の足元は継続するだろうと。

ただし、電気料金等、先ほども、話、ありましたが、電気料金等、エネルギー価格上昇によってチップの生産原価は上がるのではないかと。

というところで、早ければ秋口前とかには、もしかしたら価格の見直しも迫られるのではないかなというところを懸念しております。

今後の見通しとしましては、数量の確保というのは非常に厳しいのではないかなと。住宅の着工数、減少していくというところもありながら、加えて、人口減少（高齢化社会）及び外国人労働者を抱える解体業者が多数占める中、労働力確保も今後懸念されます。

もう一つは、未利用、一般材を使用しているボイラー、ボイラーの各社が、リサイクル材、弊社が使用している住宅解体などにシフトする、してくるとなると、よりタイト化は顕著になってくるのではないかと思っております。

簡単ですが、以上です。

○座長（酒井）　はい、どうもありがとうございます。
　そのバイオマス発電ですが、本日はグリーン発電会津様、ご欠席です。
　今朝、木質バイオマスエネルギー協会で需給動向調査の速報がまとまったのですけれども、それによりますと、燃料チップ調達価格は横ばいと。一方、燃料チップ用の丸太の調達価格は上昇していまして、特に間伐等由来丸太が９％上がっているということで、燃料用の原木価格はずっと上昇傾向だということです。
　後日きちんとした形で情報提供いたしたいと思います。
　ここまでのところで、ご質問等はございますでしょうか。
　昨年の暮れですと、非常に着工数のほうが伸び悩んで厳しいと。そのちょっと前のウッドショックの頃は見通しが立たないということでしたけれども、今日、お話を伺っていますと、それが非常に厳しい状況になってきているということで、公共建築物、非住宅で需要をつくっていかなければというようなお話がございました。
　何か補足とかございましたらお願いいたします。
　どうぞ、永島様、お願いします。

○林野庁（永島）　林野庁の永島です。皆様、ご報告ありがとうございます。
　物林の高井様にお聞きしたいのですけれども、東京港の状況について、会議資料参考１のグラフを掲載していただきましたが北米、欧州、ロシアの動向で、今後の見通しについて情報がもしあれば教えていただきたいなと思います。
　よろしくお願いします。

○物林株式会社（高井）　はい。実は私、国産材、自分ではやっているのですけれども、輸入材を扱っている同僚から又聞きで恐縮です。
　ちょっと気になるのは、やはりヨーロッパの景気なのですけれども、それがあまり芳しくないのではないかという、要するに、ヨーロッパ内部の市況も悪いと。
　一因としてはインフレが激しいということがあって今いちだということの一方で、仕向先がなくなってきていることらしいです。
　先ほど、今の日本の市況では集成柱が合わなくなっているというお話をしたのですけれども、集成柱はやはり日本向けですので、赤字で、工場によっては集成柱をストップしているところもあるということなのですが、そうすると、ＫＤですね、乾燥釜のキャパが余って、羽柄のほうに向いて、無垢の羽柄に向いて生産されるみたいな話もあるようです。
　なので、間柱も売れる分だけ作る、もしくは、投売りにもなりかねないというようなことで、今のところ、ヨーロッパはあまりいい話がないと。丸太余りも何か出つつあると、そんな感じと聞いております。
　こんなものでよろしいでしょうか。

○林野庁（永島）　はい。貴重な情報ありがとうございます。参考にさせていただきます。ありがとうございます。

○座長（酒井）　高井様には立ち入った話で申し訳ないのですが、先ほど、中国木材が北米の金利の影響とかおっしゃっていたのですが、その辺は何か見通しどうでしょうか。

○物林株式会社（高井）　そうですね。もちろん、北米の、アメリカの状況というのは非常に大きな影響が出るとは思うのですけれども、金利の動向というのはエコノミストがみんな予想してばらつくような話なものですから、今後どうなるかというのは全く分からないのですけれども、やはり、現状では、その北米のほうも、例えば、今まで売れていたフェンス材が売れなくなっているという状況も変わっていないようです。
　あと、また、国内の状況でちょっと加えますと、ＤＩＹも非常に伸び悩んでいるというようなことで、なかなか苦しいなと。
　やはり、一つ、これから、若干の波乱要因といいますか、変化としては、中国市場がどう

なるのかというのは一つあるかとは思います。
　ちょっと注目しているところです。
　すみません。ちょっと、北米のほうはいまいち、はい、情報の動きがないような状況で、申し訳ありません。

○座長（酒井）　どうもありがとうございます。
　そういたしますと、先ほど通信障害がございました新潟県木連、大丈夫でしょうか。

○新潟県木材組合連合会（木村）　先ほどは失礼しました。
　もう話が終わって申し訳ありませんけれども、では、新潟県の状況をお伝えしたいと思います。
　当県ですけれども、他県と同じように、県内の新設住宅着工戸数は、資料では３月となっていますけれども、４月までで前年比８３％と、５か月連続、前年、下回っております。
　持ち家も８７％と依然低迷しておりまして、県内のプレカット工場も厳しい状況にあります。
　この中、国産材価格、スギＫＤ管柱の軟化傾向ありまして、下がり気味ということで、当県の製材工場自体が、採算ライン、これを脅かすような状況となってきております。
　このような中で、ウッドショック当時から、集成管柱につきましては、ホワイトウッドから国産材の集成管柱の製造強化が行われたことがありまして、その後、それらをパワービルダーや大手ハウスメーカーが国産集成管柱にシフトしてまいりました。
　そのような中で、スギ、無垢のシェアが当県でも低下してきたこともありまして、県内の製材工場ではなかなか厳しい状況にあります。
　ですので、管柱というよりは、値下がりの少ない、先ほどありましたけれども、スギ羽柄材等に販売を移す等々、調整しながらやっているところであります。
　それから、ショールームについてちょっと書かせてもらったのですけれども、来場状況につきましては回復傾向にあるのですけれども、やはり減築とかスペックダウン等、価格を抑える動きが拡大したり、新規見積りというのがなかなか増えない状況があって、数は増えているけれども建築につながるような動きはなかなか見られないということがあります。
　新潟県の状況としてはこのような状況です。
　以上です。

○座長（酒井）どうもありがとうございます。
　ただいまのご発言にご質問ございますでしょうか。
　総合的にコメントされたと思うのですが、また後ほど、まとめてご質問を受けたいと思います。
　それでは、時間も押してまいりましたので、川上に移りたいと思います。
　まず、森林組合からお願いいたしたいと思います。
　茨城県森連、お願いします。

○茨城県森林組合連合会（佐藤）　はい。茨城県森連の佐藤でございます。
　まず、本会の原木市況なのですけれども、２月頃から急下降している状況です。
　５月１０日に市が立ったのですけれども、特に、スギ柱材が８０００円台まで下落しておりまして、当市場につきましては、県外の栃木、福島の大規模製材業者が主要な買手ということもありまして、応札が少なく苦慮しております。
　茨城は、そういうところから見ますと、運搬距離もありますので、福島、栃木より、もともと１０００円くらい安いということもあります。
　また、落札した原木も全体的に８０％を切っているような状況でございまして、そういった中、原木の入荷は国有林を中心に今後も順調に進む見込みでございますので、滞留する材も年々増えております。今後の原木需要が価格にどう響いていくのかというのは心配でございます。

以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、栃木県森連、お願いします。

○栃木県森林組合連合会（福田）　はい。栃木県の現在の状況ですけれども、今、茨城県がお話をさせていただいていたとおり、やはり、原木に関しては、ここ、５月、６月と非常に厳しい状況で推移をしておりまして、私どものほうも、スギ柱材に関しても１万１０００円ぐらいの値段になってきている状況でございます。

また、入札の応札に関しましても、スギの中目材、こういったところで無入札が多くなるなど、非常に売りづらいような状況が続いているところでございます。

また、丸太の生産状況に関しては、順調に生産はされているのですけれども、ここへ来まして、虫材等が多くなってくることもございまして、非常に、作業については、皆伐から間伐に切り替えたりと、非常に、森林組合にとってもここが正念場かなというようなところでもございます。

荷動きに関しても、特に４ｍのスギの中目材が動かないので、こちらはいかに販売していくかということと、土場にもやはり材料が多く残っているというようなところでもございますので、このような状況を踏まえて、今後、秋口ぐらいまでこのような状況が続くのかなというところも懸念しているところではございます。

栃木としては以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、東京都森林組合、お願いします。

○東京都森林組合（齋藤）　はい。東京都森林組合、齊藤でございます。

東京都の現状としましては、主に伐出、素材生産のほうは、東京都の森林循環促進事業という事業で、当組合としまして伐採搬出をさせていただいております。

その価格ですけれども、先ほどの栃木県等と一緒で、価格等は非常に上がっていないと。厳しい状況が続いております。

また、搬出間伐等で材を販売しても、価格等はモヤ材として取引をしていただいているのですけれども、その価格につきましても非常に厳しい状況というのが現状でございます。

以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、神奈川県森連、お願いします。

○神奈川県森林組合連合会（工藤）　はい。神奈川の場合は、全体的に、やはり材が集まらない状態が続いていまして、ただ、平均的に１万２０００円台で取引はされているところであります。

あと、その材が集まらないの中では、やはり、ヒノキのＡ材の柱目が大分不足しているというところで、需要もあるのですがなかなか材が集まらないというところが問題点です。

あと、もう一つ、県の補助金制度が変更になりまして、発電用チップ材が大分出なくなってきたというところで、取引価格が、取りあえず、よい丸太、丸棒加工用の小径木丸太など、今、だんだんシフトして回っているという状況でございます。

以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、新潟県森連、お願いします。

○新潟県森林組合連合会（中山）　はい。新潟県森連の中山と申します。

新潟の状況なのですが、やはり、皆様おっしゃられるとおり、同じく大変厳しい状況となっております。

新潟県森連の共販市場としましても大分厳しい取引状況となっておりまして、例年、この時期の共販での落札率というのは５割から６割、よければ７割程度の落札率があるのです

が、現在のところ、３割から４割程度の落札率となっております。
　また、価格につきましても下落傾向となっておりまして、現在、販売量、価格とも、低下しているという状況となっております。
　一般材につきましては、３メーター、４メーターとも、なかなか厳しい状況にあるのですが、一部、高齢級材につきましては、大変ありがたいことに、東北の方面からの買い方から取引されるという状況がございまして、こちら、高齢級材、良質材につきましては、現在のところ、まとまった取引が見られるという状況となっております。
　また、県内の製材工場向けの直送販売事業につきましても、６月から受入れ単価の変更ということで値下げの申出が入っておりますので、こちらにつきましても、今後、厳しい取引というのが見込まれる状況となっております。
　簡単ですが、以上となります。

○座長（酒井）　続きまして、山梨県森連、お願いします。

○山梨県森林組合連合会（田中）　はい。山梨県森連、田中と申します。
　山梨県では共販場が３拠点ありまして、針葉樹、スギ、ヒノキ、カラマツの流通に、今、努めているところであります。
　当会は、共販市場、直送も含めた事業と、土木資材向け加工場も併設させていただいております。
　今、植えた動き、合板向けの素材ですけれども、先ほどちょっとお話ありましたけれども、入荷量、月決めで調整、手入れされているという状況と、あと、一般向けも、木材単価もよい様子は当面望めないというような状況であります。
　景況は、恐らくウクライナ紛争のことも大きい要素と考えられるのでございますけれども、ぜひ、経済効果の大きい住宅着工について、もう少し細かな、政府、行政の策はないかなとも考えております。
　また、人的資源の常態的な問題も、これも頭が痛いところでして、今後、業績を維持するのに大きな問題と捉えて奮闘しているところであります。
　以上です。

○座長（酒井）　続きまして、静岡県森連、お願いします。

○静岡県森林組合連合会（望月）　はい、静岡県森連の望月と申します。よろしくお願いいたします。
　静岡の状況としましては、県内の３共販場とも入荷のほうは徐々に減ってはきておりますけれども、売行きとしましては、大分、ウッドショック前の価格に戻ってきたかなというような感じになっております。
　先ほど、県木連からもお話がありましたけれども、地元の製材屋の動きというのが、この年明けからあまりぱっとしない中、動いておりますし、この秋中がどうなるかといったところを僕らのほうも注視しているところでございます。
　ノダさんへの合板原木の供給については、需給のバランスを取りながら月々決めた量を納めているわけですけれども、不足感があるということもなく、月ごと、週ごと、ノダさんと調整しながら原木は受け取っていただいているというような状況になっております。
　簡単ですけれども、以上です。

○座長（酒井）　引き続きまして、素材生産へ移りたいと思います。
　静岡県のフジイチ、石野様、お願いいたします。

○株式会社フジイチ（石野）　はい。フジイチの石野です。よろしくお願いいたします。
　うちの会社は自社で素材生産をして、自分たちの中で製材をしている会社です。約２万立

方くらい扱っています。
　そんな中で、皆様、川中、川下の話を聞いていますと、非常に厳しい話が多かったですけれども、弊社においても非常に厳しい状態ということは皆さんと一緒です。
　特に、素材生産においては、ウッドショックの中で、どうも、山側、たたかれたことがありまして、補助金がたくさん出たということもありまして、素材生産が止まらないというか、少し余分に出てしまっているのかなとは思っています。
　特に合板業界の結束力には、実はびっくりしていまして、皆さん、そろって減産をしておりますけれども、これが、素材業者とか製材というのはそういうことができなかった、協調して減産することはがきなかったということで、今の価格の暴落を招いているのかなと思っております。
　これはいい教訓にして、合板のやり方を見て、日本の国産材の製材も素材業者も考えなくてはいけないと思っています。
　先ほど、ＦＳＣについてちょっとクリーンウッド法とのことについて話をしましたけれども、うちの会社は実は１００％ＦＳＣになっておりまして、出荷も１００％、そして、チップにおいてまでもＦＳＣで出荷しておりまして、そういうふうに、もうＦＳＣでそろっております。
　１３年前から取っておりまして、毎年、監査を受けておりまして、毎年の監査でしっかり帳簿等を監査されております。
　ということで、先ほど、なぜクリーンウッド法と一緒にやらないのかという話をさせていただきましたけれども、もう少し、何か、ＳＧＥＣがあったり、クリーンウッド法とか、合法だとか、ＦＳＣ、いろいろありまして、それぞれ環境のことをいっているのですけれども、いろいろ交じり合ってしまって、ルールがないとまでは言いませんけれども、ちょっと複雑になっておりますので、もうからない業界にこういういろいろな制度を持ってくるというのは非常にありがたくないということですので、できれば、統一するなりして、ＦＳＣと、相互乗り入れではないですけれども、クリーンウッド法が、相互認証するなりしてやってほしいなと思っております。
　そうしないと、せっかく１３年もＦＳＣをやってきて、これは認められないというのは非常におかしな話でして、少し考えてもらいたいなと思っております。
　また、今回、花粉対策、岸田首相が言って、花粉対策で木を切るという話がありましたけれども、これについても、実に、あの話が、国会で出た話が急なのか考え抜いて言ったのか、ちょっと私には分かりませんけれども、今の状況の中で、外材がたくさん入ってくる中で、国産材を花粉対策で切るということは、非常にありがた迷惑とは言いませんけれども、花粉について、切るということで、認めざるを得ないのですけれども、もう少し考えながらいかないと国産材の業界が壊滅するという思いもしますので、その辺、もう少し考えてもらいたいなと思っています。
　以上です。

○座長（酒井）　貴重なご意見ありがとうございます。
　苗木生産のお話も伺いたいと思います。
　茨城県の大越さん、お願いいたします。

○茨城県林業種苗協同組合（大越）　はい。茨城県は、記載をさせてもらったとおり、例年並か、秋はやや減少傾向にあります。
　というのも、やはり、人材不足、人不足、担い手不足という形で、茨城県ではないのですけれども、近県にちょっと約束していた国有林で不落とか不調とかというのがあって、せっかく苗木を準備していたのにキャンセルになってしまった、そして、余ってしまったということがありますので、やはり、こういうことがあると、やはり、働き手がないから不落不調だ、価格の面もあるのでしょうけれども、そういうことも含めて、これから、やはり、労働者というところを、担い手というところをとにかく一生懸命頑張っていこうかなと思っております。

以上でございます。

○座長（酒井）　働き手がないというようなことと、特に苗木の場合はキャンセルが非常に厳しいということで、その辺のセーフティ・ネットをどうしていくかということになっていくかなと思いますけれども、どうもありがとうございました。
続きまして、神奈川県、お願いします。

○神奈川県山林種苗協同組合（樋口）　はい。神奈川県山林種苗協同組合です。
今、茨城県で言っていたことと同じなのですけれども、やはり、どうしても、その担い手不足であったり、苗木のほうも、急きょ買えませんということが多いので、ちょっと、前年度は過去最低を記録してしまったので、今年はそれよりは増えるのではないかという形でやや増加になっております。
神奈川県では以上です。

○座長（酒井）　続きまして、静岡県山林種苗協同組合連合会、お願いします。

○静岡県山林種苗協同組合連合会（後藤）　静岡県山林種苗協同組合連合会の後藤と申します。静岡県の場合も茨城の種苗と同じように、今年の春、やはり入札不調がありまして、入札不調だけで約２万本、その他、春植えから秋植えの変更がありまして、スギ、ヒノキのコンテナなのですけれども、合わせて９万本近く、春に植える予定が秋植えになってしまったという中で、規格の問題がこれから多分生じてくるだろうと。林野庁も、規格の見直しということで通達も来ていますけれども、静岡県の場合も、一応、現場に合った規格を、今年いっぱいかけて新しい規格をつくりたいと思っていますので、山側の人と、ニーズも聞きながら、静岡県に合った規格を決めていこうと思っております。
以上です。

○座長（酒井）　最後になってしまったのですが、国有林と森林整備センターからお話を伺いたいと思います。関東森林管理局からお願いいたします。

○関東森林管理局（川浪）　はい。関東森林管理局の川浪です。
国有林材の本年度の販売につきましては、予定数量はアンケートのとおりです。立木販売、製品販売ともほぼ昨年と同程度ということで予定をしてございます。実際の供給については、各森林管理署において地域の需要動向を見ながらやっていくということで考えております。
林野庁の資料の参考６にある国有林野の立木販売結果の公表につきまして、従来、関東森林管理局では、各森林管理署のホームページで公表をしていたのですけれども、より見やすくするということで、今年度から局のホームページに専用ページを設けまして、この中で、一覧で、物件の内容や入札の結果を公表することにしております。４月の公売の実績はありませんでしたので、５月の公売の結果から公表するということで、今月中にホームページの中に専用ページを開設いたします。
国有林関連の動きは以上でございます。

○座長（酒井）　続きまして、森林整備センター、お願いいたします。

○国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター関東整備局（角田）　森林整備センター関東整備局の角田といいます。
森林整備センターでは、素材生産と立木販売とも、計画どおり、今年度、実施する予定でございます。
以上でございます。

○座長（酒井）　ここまでのところで補足ですとかご質問とかございましたら、よろしくお願いいたします。

今回、大分厳しいお話を伺ったところなのですけれども、よろしいでしょうか。

県の方で何かコメントございましたらお願いいたします。

よろしいですか。

後で林野庁にフォローしていただいて、情報交換を、後ほどでも、機会をつくっていただければなと思います。

一通りご意見を伺ったと思うのですが、全体を通じて何かございますでしょうか。

ないようでしたら、時間も迫っていますので、終わりにいたしたいと思います。

本日は多様なご意見を賜りましてありがとうございました。

本日、ご議論いただきましたけれども、国産材につきましては、話題にもなりましたが、輸入材の供給リスクの回避ですとか、あるいは、森林の持続的経営、カーボンニュートラル、それから、海外情勢を受けての中で、国内需給の価格動向の安定化を図ってまいりたいと思います。

今後とも、この需給情報連絡協議会を含めました様々な機会を捉えて、皆様と情報共有してまいりたいと思います。

引き続きまして、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、出席者の皆様のご協力に感謝申し上げつつ、進行を司会にお返しいたします。

本日はどうもありがとうございました。

（　閉　会　）

○司会（茂野）　酒井座長、どうもありがとうございました。

本日の議事録については、参加者の皆様に内容を確認していただいた上で、林野庁ウェブサイトで公表させていただきますのでご協力をお願いいたします。

また、今年度の関東地区需給情報連絡協議会の開催は全２回を予定しているところですが、次回の開催時期は現在のところ未定ということでございますので、また引き続きよろしくお願いしたいと思います。

本日は、長い時間にわたりご参加いただき誠にありがとうございました。